



梅雨は日常生活にとって少々うっとうしい時季ですが、穀物にとっては一定量の降雨が必要です。近年は雨の降り方に変化があるようですね。先月からは線状降水帯を予測する活動も始まりました。元来梅雨の晴れ間である“五月晴れ”にほっとします。以前はこの時期に庭に梅を干す風景がよく見られました。

## 地中から学ぶ

発掘  
Q&A

市内では毎年何度か発掘調査をしています。コロナウィルス流行前は文化財ボランティアの方々にもご参加いただきましたし、社会体験チャレンジ事業の一つとして中学生の参加もありました。現地説明会も実施しました。



(現地説明会 大道遺跡)

### Q1 遺跡が見つかるきっかけは？ (遺跡→遺構+遺物) おひら

- ア：地表面で土器片などが採集された場合・・・大道遺跡、増林中妻遺跡など。土器片などが地表面で採集されると地下に遺跡があるのではないかと考えられます。実際に遺跡があるかどうかは試掘をして確認します。
  - イ：城跡など伝承がある場合・・・越ヶ谷御殿跡、大相模次郎能高館跡など
  - ウ：遺構が今でも残っている場合・・・〇〇古墳、〇〇城 など
  - エ：思いもしない所から発見される場合(不時発見)・・・工事中などで不意に遺物が発見された場合 など
- 多くの場合、開発によりやむなく遺跡が壊される時に発掘調査を行い、記録として遺跡を保存します。



(糸切り痕 成形後にロクロから切り離した痕)

### Q2 遺構の多くはどのようにして地下にあるの？

長い年月の間の河川の氾濫や流路変化、また耕地化などによってかつての遺構(住居址、溝や井戸の跡等)の上に土砂が堆積するからです。

### Q3 遺構や遺物の年代(時代)は、どのようにわかるの？

遺構の断面地層や遺物(土器など)の特徴(形、厚さ、色など)から推定します。

### Q4 出土した土器などは誰のもの？

拾得物(落とし物)として警察署に届け出ます。出土品は多く壊れやすいので書面で届け出ます。所有権はその土地の所有者と発見者にありますが、貴重な国民的財産でもあり調査前にその権利を放棄していただくことが多いです。越谷市は中核市なので出土品が文化財であるか否かの認定をする権限が県から移譲されています。もし市内で土器片などを拾うことがあったら、是非とも教育委員会生涯学習課にご連絡頂きたいと思います。それが文化財なのか、遺跡なのかの手掛かりがそこにあるからです。

## 発掘はこのように進めます

- ①調査計画・各種手続き
  - ②表土取り除き
  - ③遺構検出
  - ④写真・図面作成
  - ⑤遺構掘削完了
  - ⑥現地説明会(行わない場合もあります)
  - ⑦埋め戻し
  - ⑧整理作業(遺物洗浄・復元、分析)
  - ⑨発掘調査報告書刊行
- これらの内、②、③の発掘作業と④、⑧についてももう少し具体的にお話ししましょう。

### 表土の取り除き

実際の発掘作業はまず重機を使って表土(遺構の上を覆っている土、畑の土など)を取り除くことから始まります。この時使用する重機のバケットには“爪”がないものを用います。どれ位の深さまで取り除くかはとても難しく、取り過ぎると遺跡を破壊してしまいますので、試掘結果や土の色、発掘調査担当者の経験や知見によって判断します。



うちぐろ  
内黒の土器

素焼きの土器は液体が漏れやすいので、内側を煤でコーティングして漏れにくくしています。

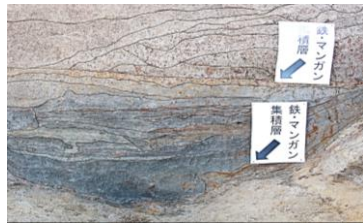
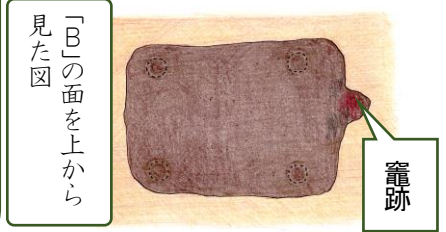
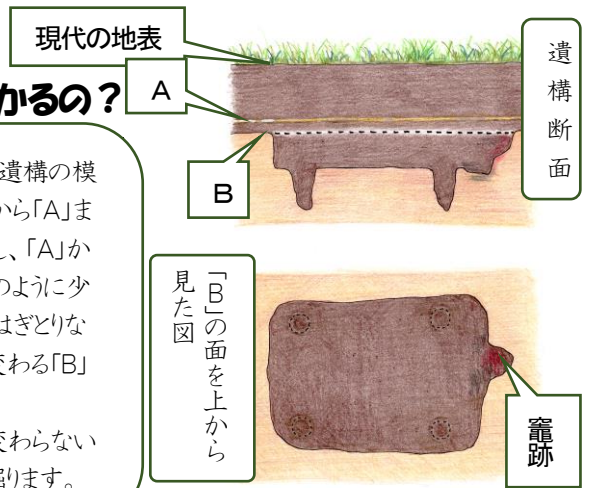
(大道遺跡出土)

## 遺構検出 Q5 どうしてそこに遺跡があるとわかるの？

遺構（かつての住居や井戸等の跡）の上に溜まっていく土砂は、遺構の面とは異なる土なので、遺構の面より上の部分から平らに掘り下げていくと、異なる色の土が現れます。この土を取りのぞくことで遺構の形が現れます。



右は竪穴住居遺構の模式図です。地表から「A」までは重機で掘削し、「A」から下は左の写真のように少しずつ薄く表面をはぎとりながら、土の色が変わる「B」まで進めます。その後、色が変わらない部分を少しずつ掘ります。



遺構断面の地層色の違いを注意深く見定めます。



遺物は発見時の位置や状況を記録後に取り上げます。



竪穴住居址(海道西遺跡)  
十字の畔は遺構の断面地層を観るためのもの

## 遺物の記録(土器の例)

遺跡で土器(片)が出土すると、まずその状態で位置や状況等を記録します。取り上げた時にそれが後で分かるようメモした紙片と共にビニール袋に入れて整理室(旧東方村中村家住宅内)に運びます。そこで1個ずつ丁寧に洗います。それを乾かしてから計測、記録を行います。



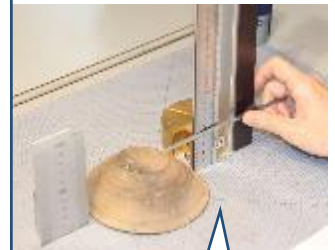
座標値(位置と高さ)を測定して位置を記録します。

**土器片の洗浄**  
馬とヤギの毛の歯ブラシで優しく丁寧に洗います。



出土した土器片を可能な限り繋ぎ合わせます。透明の接着剤を用い、欠損部には石こうを入れます。(3世紀後半の増林中妻遺跡出土の甕)

「真弧(まこ)」という器具で土器の形を写し取ります。真弧は薄く削った竹板を何枚も合わせたもので、土器の形状に自在に合わせる事ができます。



土器の形状を計測しているところです。



## Q6 なぜ、何のために発掘するの？

この疑問は、かつての人々の生活、歴史や文化を知ることがなぜ必要かということでもあります。それらを示す史料の中で、時代を遡れば遡るほどに紙などに書かれた資料が少なくなります。文献資料だけでは知ることができない手掛かりが遺構や遺物から知ることができます。それらを目の当たりにした時に、その地域や社会に、あるいは個人に愛着や自分のアイデンティティ(人格の存在証明、存在意義)を感じることができます。そうすると遺構や遺物は個人や社会にとって大切な文化的資産となります。こうして、古を知ることが現代社会や自分を理解することに繋がり、そしてそれらの将来について考える手立てにもなります。

### 防災フェス「気持ちがおもしろい」

今月4、5日にレイクタウン周辺で開催された防災フェスでは、旧東方村中村家住宅で「先人も疫病と闘った」というパネル展示を行いました。多くの方々にご来館頂き、有難うございました。見学された方の一人は「昔にも疫病と対した人々のことを知って、コロナ禍の私達だけじゃないと気持ちが少し楽になりました。」と話していました。このパネルは越谷市HPでご覧になれます。